

縦 隔

田 坂 皓*

通常の断層影影と同様に，CTでも呼吸を止めている数秒の間に撮影が終わるようになったのは最近のことです．これで胸部の診断については，通常の断層撮影と対等に使用できる最低の条件が満たれたといえます．

CT が使えるようになった利点は次の2つに要約できます．

- 1) 胸部の横断面での形態が判断できる．
- 2) コントラスト分解能が高いので，従来のX線撮影では濃度差がなかった内部構造を描出できる．

通常の断層撮影では前額断面および矢状断面での判断が一般にされます．これにCTによる横断面を加えると，胸郭内の病変の形や位置などの理解が容易になります．とくに縦隔の内部，縦隔に接した肺，胸膜に接した病変などの判断によいといえます．第2の特徴については，とくに縦隔内の臓器の間にある脂肪組織が低い吸収の構造として強調されるため，大血管やその他の縦隔内の形態が画像として描出されるところに価値があります．縦隔の輪郭にまでは変形を生じないような，縦隔内リンパ節の腫脹の判断などがある程度は可能となりました．また，縦隔の腫瘍性の病変の構造や臓器との関係の判断にも役立つようになったといえます^(注)．

注) 使用した CT 装置は GE CT/T 7800, 8800, ASEの3種類．

* Akira TASAKA 東京大学名誉教授